

経営比較分析表／団体全体（令和2年度決算）

宮崎県 宮崎市

【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	2,000	極小規模	1	909
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	83.3	2	1,500	自治体職員	

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和2年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

●経営の健全性について
 「経常収支比率」は100%を上回っており、主な理由は長期前受金戻入の増加による経常収益の増加です。
 「流動比率」は未払金の増加により流動負債が増加し減少しました。
 「料金回収率」は経費の削減と給水収益の増加により100%を上回り、全国平均や類似団体平均より高くなっています。

●効率性について
 「給水原価」については長期前受金戻入及び年間総有収水量の増加により前年度より減少しました。また、「施設利用率」については1日平均配水量が増加し前年より高くなっており、類似団体よりも費用と施設の効率性が高いといえます。
 また、「契約率」は、「責任使用水量制」を採用しており、類似団体平均を上回り全国平均と同程度になっておりますが、必要に応じて、施設規模について検討を行ってまいります。

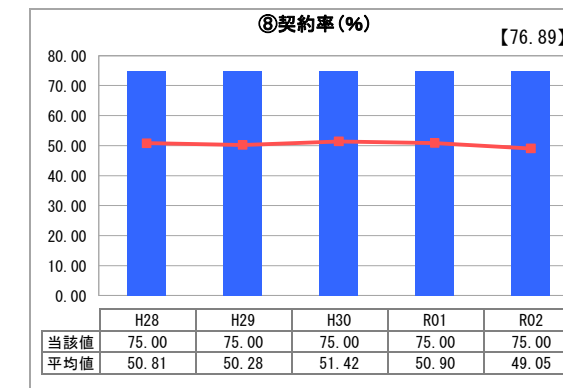
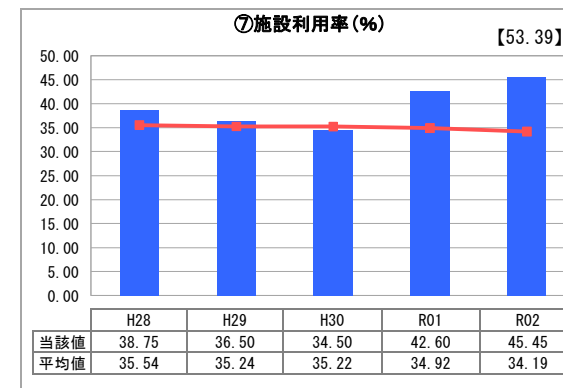
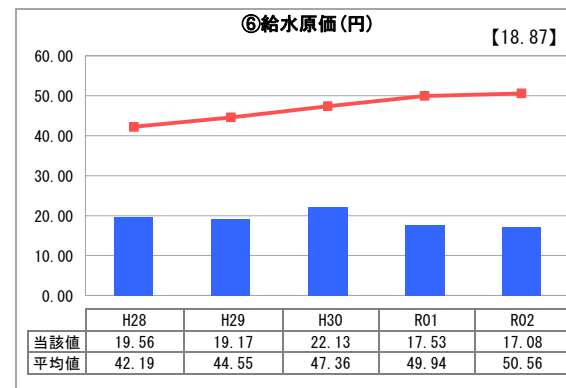
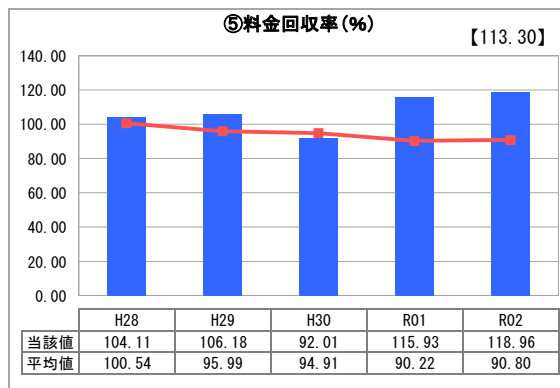
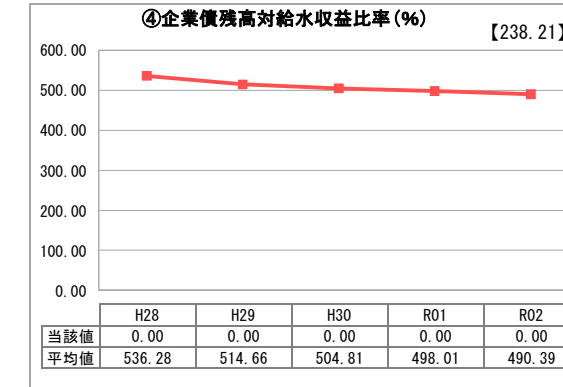
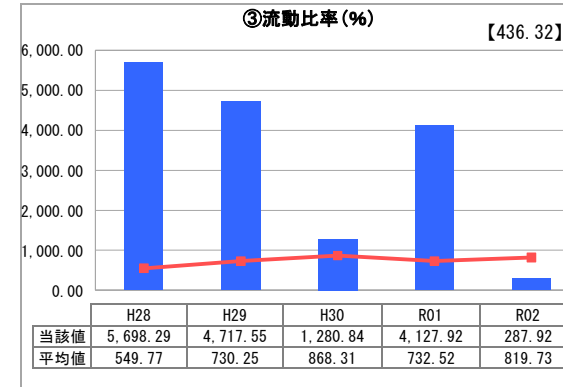
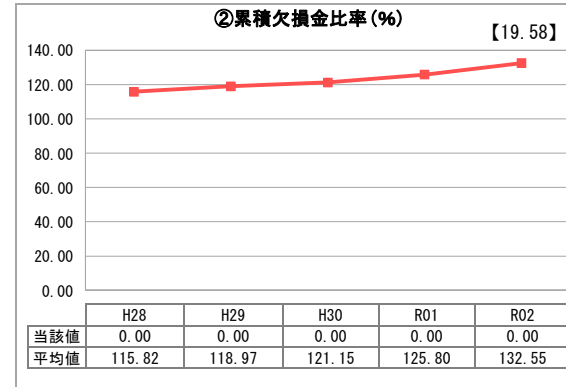
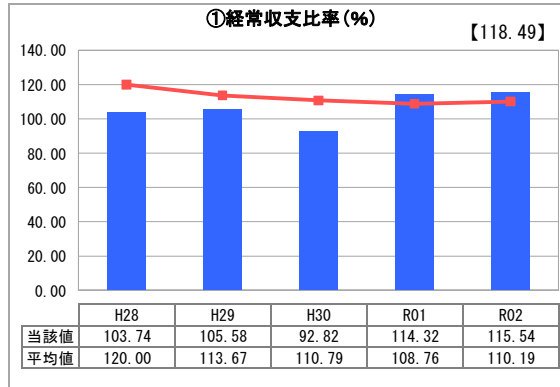
2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」は、事業開始から30年以上を経過し、老朽化が進んでいる施設について重要性等を考慮しながら更新を行い、前年度から改善しました。
 また、「管路経年率」は法定耐用年数(40年)を経過した管路がないことから0(ゼロ)になっておりますが、施設の維持管理に必要な更新は行っており、「管路更新率」が8.1%になりました。
 今後も、事業開始時に整備した管路をはじめとする施設の老朽化や耐震化に伴う更新について、計画的・効率的に進める必要があります。

全体総括

事業開始から30年以上が経過し、施設等の老朽化対策とともに耐震対策が喫緊の課題となっており、施設等の更新事業費の増大が見込まれています。
 今後とも、受水企業の需要に応じて安定的に給水を行うため、老朽化や耐震化対策に対応した施設整備事業計画を策定し、「経営戦略」に基づき計画的・効率的に事業を行ってまいります。
 なお、施設更新に伴う財源の確保を図るため、受水企業との協議のうえ、令和3年度から料金改定を行いました。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

